令和５年度 第２回 豊田市こどものスポーツ・文化活動等に関する協議会 会議録

日　時	令和５年１１月２４日（金）午後３時～４時３０分
場　所	豊田市役所６５会議室　（東庁舎６階）
参加者	【会　長】中野　貴博　中京大学 スポーツ科学部　教授 【副会長】藤田　雅也　静岡県立大学短期大学部こども学科（美術教育研究室）教授 【委　員】粕谷　浩二　(公財)豊田市スポーツ協会　常務理事 【委　員】藤本　　聡　(公財)豊田市文化振興財団　専務理事 【委　員】加藤　矢舟　豊田文化団体協議会 会長 【委　員】岡山　尚司　愛知県中小学校体育連盟豊田支所　支所長 【委　員】加藤　秀昭　豊田市小中学校長会　副会長 【委　員】八木　健次　豊田市　生涯活躍部長 【委　員】三浦　法雄　豊田市教育委員会　教育部長 【事務局】生涯活躍部文化振興課　相田課長、太田副課長、大西担当長 生涯活躍部ｽﾎﾟｰﾂ振興課　都築課長、阿垣副課長、藤村担当長、原田主査、榊原主事 教育部　中垣副部長 教育部学校教育課　小山課長、赤川副課長、若月専門員、馬場指導主事 【傍聴人】なし
内　容	1　会長挨拶 ・学校ではインフルエンザ等も流行っている。みなさんも体調管理には十分気を付けながら、子どもたちのよりよい活動のために議論ができたらよいと思っている。本日はお願いします。 2　事務局からの議題の説明・議題に対する委員からの意見等 【事務局】・資料に基づき説明 【会　長】・気になったところから質問やご確認を含めてご意見をお願いします。 【委　員】・資料１に「令和８年度に現行部活動を廃止」という文言がある。この言葉を出していくことが革新的。このことがきちんと打ち出されることで、地域としても「何とかしなくてはならない」という気持ちになり、今後、本気になって考えてくれるのではないか。 【会　長】・国は「まず休日」、「段階的に平日も移行していく」と言っている。この提案からは、すべてひっくるめて新しい形でやるという姿が見えたと思っている。子どもへのアンケートでは７割以上が「今の形で継続したい」とあるが、今のままでは継続することは難しいため、どのようなやり方ならば維持できるのか、新しい形を考えていくことが大事。 【委　員】・丁寧にヒアリングをしてくれている。別紙３の中で、新しい運営主体として「学校運営協議会」「地域学校共働本部」が新たな役割を担っていくとある。ここが子どもファーストの形で担保されるとよい。ここを充実させていくために、メンバー等の拡充予定等はあるか。

【事務局】・現在の地域学校共働本部の活動は、地域コーディネーターが担っている。中学校には、部活動コーディネーターも入っている。今後、活動が充実してくるとコーディネーターの業務も増えてくると思うので、人材確保等について相談をしていきたい。

【委　員】・大人の思いだけで進んでいくといけない。子どもの思いを十分に反映させて進めていきたい。次に、競技型や生涯型に属さない「将棋を極めたい」「イラストを極めたい」といった子どもたちはどうするか。もっと柔軟に言うと「私はやらない」という選択肢もでてくるのではないか。それを容認していく方向性はあるのかお聞きしたい。

【事務局】・どこまでを認めていくかは今後検討していく。「私はやらない」という子に対して、強制はできないので、より多くの子が「参加したい」と思えるように働きかけていきたい。

【委　員】・仮称はいつ固めていく予定か。

【事務局】・骨子を固めていくタイミングで決めていきたい。

【会　長】・子どものニーズは時代とともに変わっていく。柔軟に対応していけるように少し融通がきくように考えていくとよい。

【委　員】・令和８年度に部活動を廃止するという方向性は、一歩先を見た目標でありとてもよい。本校でも地域部活動指導者は２０数名。現在は、教員と一緒に指導をしている。今後、教員の手から部活動が離れていくとなると、教員の負担感が減っていくためとてもよい。

・しかし、今後、平日のことを考えていくとどうか。実際のところ、平日は夏場に長く時間が取れたとしても１時間ほどの練習時間になる。午後４時から５時くらいまでの時間帯に指導できる方は実際いるのか。仕事もあってなかなか難しいはず。

・その時、この部はやれるけど、この部はやれないのはなぜかという問題が出てくる。やれない部活動が出てくると生徒がスポーツ・文化芸術活動に触れる機会が減ることになるので、そうならないように考えていかなくてはならない。そのための人材バンクを充実させてほしい。

・それから、室内競技の開錠の問題や、ケガが生じたときに誰が何をしていくのか明確にしていかなくてはならない。今はそこを教師が対応しており、地域指導者の中にも「先生と一緒だからやっている」という人もいる。「自分がやる」となると不安になる人は多いのではないか。

・この体制づくりをしっかりしていきたい。学校としてもできることは協力していきたい。特に、市から保護者には一括して説明してほしい。

【会　長】・指導者と学校のマッチング等、現段階で厳しくなりそうな見通しがあるところについては、早めに対策を考えていく必要がある。そのうえで丁寧な説明ができれば、保護者も安心できるのではないか。

・他市町では、明確に人材バンクを作っているところもあれば、作っていないところもある。作らずにやっているところは、どこが厳しい状況になっているのか見えないため不安である。新しい運営主体が軸となり、内情をよく知っている組織が橋渡しをしていく必要がある。

・令和８年度にスタートできるシミュレーションが必須である。それから、名前は大事。丁寧に考えていかないと周知されていかない。

【委　員】・何年かたって「とよ活」が軌道に乗ってきたときに、新しい運営主体である豊田市が抜けてしまうことがないようにしてほしい。これまでにも市が手を引いて、民間の団体が主体になるケースもあった。やはり市がきちんとイニシアチブをもち、教育委員会や所管課がきちんと関わり、関係団体と手を組んで進めていただきたい。

【委　員】・資料１を見ると、骨子がアンケートの結果に基づいて検討されていてよい。数点意見を申し上げたい。

・１つ目は、「こどもファースト」で既存のスタイルにとらわれない形で計画をしていただきたい。これまでの枠にとらわれることなく、子どもたちが何を望んでいるのか現在の子どもたちの実態を捉えた上で検討してほしい。

・２つ目は、「切れ目がない」という言葉があるが、切れ目はあってもよいのではないか。切れ目があってはいけないように受け取れる表現である。言葉だけの問題かもしれないが、「連続的かつ発展的に」などの表現にしたほうがよいのではないか。

・３つ目は、「令和８年度から部活動を廃止する」と具体的に明記することの意味は大きいと思う。ただし、廃止することに対する保護者や子どもたちの不安は大きいと考える。きちんと活動の場が担保されていることを伝えた上で、部活動が廃止になることの背景などを丁寧に説明することがまず必要である。「部活動廃止」から入っていくと、理念が入っていかなくなる恐れがある。

・４つ目は、「とよ活」という言葉（名称）は再検討をしてほしい。部活動の今後の形が見えてこないことに加え、軽い印象がある。時間はかかってしまうかもしれないが、名称を豊田市内の学校などを通して公募してはどうか。子どもたちからアイデアを吸い上げて決めていくことも良いのではないか。

・５つ目は、３つのカテゴリーに分けていくことはとてもわかりやすいが、競技型・生涯型を厳密に２分することは難しい。生涯型であっても、競技性が含まれることもある。この箇所も柔軟に考えていくとよい。

・６つ目は、「こども」という言葉の意味合いが、示されている場所（資料）によって大きく変わっている。未就園児、小学生、中学生、高校生など、どの年代を対象とした取組なのかが明確になるように、「こども」の定義について考えていってほしい。

・７つ目に、中京大学等と連携していく計画はとてもよい。加えて、音楽や美術の学部・学科を持つ愛知県立芸術大とも連携を図っていくとよい。

・最後に、指導者への謝金や保険などについて教えていただきたい。

【会　長】・これまでのところで事務局から回答できるところがあればお願いしたい。

【事務局】・謝金は、現在１時間１８３０円で実施している。土日どちらか一日に３時間、月に４回、年間４０週実施していただいている。今、関係機関に

調査を進めており、今後更なる検討をしていく予定である。

・豊田市は、６つの大学と協定を組んでおり、市外であるが、愛知県立芸術大学もそこに入っている。今後、連携して計画をしていきたい。

【会　長】・私は「切れ目のない」は好きな言葉。でもそこにこだわっていてもいけない。大会や交流試合等、目標設定みたいなもので競技型・生涯型を分けるのも良い。「試合はなくてもよい」という子どももいるのが現実。試合の有無もカテゴリーを考えていく上での材料となる。

【委　員】・「切れ目のない」ということに関連しての意見。今回の骨子は中学校の部活動の地域移行が中心であるが、今後は中学生だけでなく、全体像を考えていかなくてはならない。特に、小学生の支援体制については生涯活躍部で悩んだ。数年前までは、小学校でも部活動を実施していたが今はない。そこをフォローしていくための案はあるか。

【事務局】・放課後の居場所や子どもの健全育成を目的に、小学校は数年前までは部活動をしていた。しかし、教員の働き方改革もあり、校長会でも協議を重ね、令和４年度までに活動を廃止している。現在は、地域学校共働本部で、放課後の居場所づくりとして、子どもがスポーツや文化に親しむことができるような機会を設定しようと地域の大人が動き出したところがある。週に１、２日、時間で言うと５０分ほど、サッカーや吹奏楽等を実施している。

【会　長】・中学生に限らず、高校生や一般の方も混ざって活動することも有り。初めからそれを打ち出すことは難しいが、それが叶えば素晴らしい。それが可能になるような案を書いておくことはよい。例えば、３～４年間活動を進めていくと、中学校を卒業した子どもたちが戻って一緒に活動していくような良い空間になる可能性はある。

【委　員】・将来的には、幅広に進めていくことを視野に入れて考えていきたい。

【会　長】・子どもの発育を考えていくうえで、違う年代と接することはとても大事である。日本は世界的に見ても同世代で活動することが多い。

・「とよ活」の３つのポイントについてはいかがか。第９次豊田市総合計画にもそのまま重なっている。

【委　員】・母体をどこにもっていくのかイメージできない。ハンドルを握るのが地域部活動コーディネーターでは現状難しい。令和８年度からの取組を考えていくうえでここが一番重要である。豊田市の強みでもある地域学校共働本部が中心になるのか。また、コミュニティ・スクール連絡会議の中で、部活動の地域移行を議題としてあげ、地域全体で検討していく対象にすることもよいが、「自分たちはやれない」という地域もある。地域に投げかけて、どうなるかは私たちにも見えない。誰がどこにどうやって委ねていくのか考えていかなくてはならない。

【会　長】・立ち上がりは、相当市が先導しないといけない。人材バンクを作っていくことも市の動きが鍵。学校との連携も含めて、新たな運営主体は市がきちんとリードしていくことが大切。

【委　員】・「とよ活」の名前について、子どもたちにアンケートをとって決めていけ

るとよい。それから、保護者のアンケートの結果には、土日の部活動は７割以上が必要だと答えている。そこに保護者の不安の内容についても掲載されているが、一つ一つクリアしていけるように計画に盛り込んでいってほしい。

【会　長】・原則は学校単位の活動であるが、単一校では部として成り立たない学校については、連携が必要。お金についても、ずっと受益者負担なしでは難しい。こちらが一方的に決めていてはいけないことなので、丁寧に検討をしていかなくてはならない。０円という希望はあるが、他市の状況をみると、ワンコインくらいであれば手が出しやすいという声もあった。

【委　員】・豊田市の強みとは何か。

【事務局】・既存の地域指導者、スポーツ・文化団体、企業・大学が多いと認識している。施設的な面でも充実している。

【会　長】・豊田市には、連携校も含め大学が６つもある。全国的にみてもなかなかない強みである。

【委　員】・地域学校共働本部は、コロナ禍でなかなか行事等実施することができなかった。学校主体でやっていることが多い。力のある人材をいかに見つけていくか。市がリーダーシップを発揮してくれる人を発掘していくことも検討してほしい。

【委　員】・豊田市文化芸術振興委員会との関連やつながりはどうなのか。同委員会では、「文化活動者派遣事業」なども進めているので、派遣している指導者の情報共有なども含め、密な連携と情報の共有を本委員会と図っていただきたい。また、今後子どもたちに説明する際に「文化」とはどういうものか（種目など）をわかりやすく説明できるとよい。

【事務局】・今後、検討していく。

【委　員】・地域指導者は学校への文化活動者派遣事業の指導者と関連性はあるのか。

【事務局】・すでに文化活動者派遣事業で、たくさんの学校に行っていただいているが、そこをもっと強化したいと考えている。まだ行っていない分野の文化芸術活動の方にも参加してもらいたいと考えている。

【委　員】・演劇や能などの伝統芸能等も豊田市の強み。他の委員会とのすり合わせをして、一つのプランをいろんな部署で受け持っていることも骨子に盛り込んでいきたい。それから、「地域移行をしなくてはいけない」という発想からスタートしてはいけない。子どもを主体にして、考えていくことが大切ではないか。地域移行することによって、子どもたちにとって、地域にとって、どのような良さがあり、魅力を生み出すことができるのかという切り口で具体的な検討を進めていきたい。

【委　員】・ようやく骨子がこのような形となり、動き出すことができた。本日はいろいろな示唆をいただいた。令和８年度に向けて計画を進めていきたい。

【会　長】・骨子を出していただいたことでイメージしやすくなった。運営主体については、しっかり議論をしていかなくてはならないこと等課題が明確になってきた。